

地域資源管理部門賞

宮城県 水土里ネットつるた川

小学生を対象とするイベントに力を入れ
親や祖父母世代も巻き込んだ啓発活動を実践

位置図



水路の水質・生き物調査で
農業用水施設の重要性を伝える

水土里ネットつるた川が管轄するのは、宮城県中部を流れる鶴田川の沿岸地域です。管内には、日本三景の松島や平成29年に世界農業遺産に登録された「大崎



多面的活動組織と連携した「親子でのクリーン作成」

耕地」の一部が含まれ、現在では県内を代表する農村地域となっています。

かつてこの地域は水害が頻発する沼地でした。それが300年前の干拓に始まり、土地改良事業を経て、ようやく今のような汎用農地に生まれ変わったのです。それに伴い農地の集積や担い手の法人化が進みましたが、一方で営農を離れる人も増え、農地や農業用水施設を維持管理する担い手が激減し、このままでは集落機能を維持することが困難な状況となりました。

そこで水土里ネットつるた川では、集落を維持しながら次世代へ引き継ぐため、平成19年度に農地・水・環境保全向上対策の制度が始まったのをきっかけに21世紀土地改良区創造運動を始めました。現在は多面的機能支払交付金の活動組織と連携した活動だけでなく、知恵をこらした様々な取り組みを行なっています。特に小学生を対象としたイベントに力を入れ、地域の将来を担う子どもたちへの啓発を行うとともに、親や祖父母世代も一緒に参加してもらい、地域全体の活性化につなげています。



地域に生息する生き物と触れ合う子供たち

その一つが、水質・生き物調査です。地域を流れる水路を親子で清掃するクリーン活動のほか、地域に生息するナマズやウナギ、雷魚などと直接触れ合ってもらいます。この体験を通して、「水路は実り豊かな農地を作るために不可欠なもの」というメッセージを子どもたちに伝えていきます。

世界農業遺産「大崎耕地」で
地元のイメージチェンジを目指す

また、31年前に発生してこの地域に甚大な被害をもたらした「8・5豪雨災害」の記憶を風化させないため、平成29年度には「先人の思いを未来へ」と題したイベントを開催。廃校となった小学校を会場とし、水害のパネルや地域に生息する貴重な生き物の資料を展示したほか、地域の伝統行事である「もんつき」の体験会や「たんがら踊り」の実演が行われました。世界農業遺産に登録された「大崎耕地」のPRも行い、従来の「水害常襲地域」という負のイメージから「巧みな水管理によって先人が築き上げた豊かな土地」という明るいイメージへと転換を図っています。

こうしたイベントをきっかけに各地域で自主的な活動が始まり、農福連携や景観形成などに取り組む事例も生まれています。今後も「継続は力なり」をモットーに、農業用水施設が持つ多面的機能や水土里ネットの役割について広く啓発活動を実践していきます。

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネットつるた川
役員数	11名
職員数	常勤12名
組合員数	1,895名
受益面積	2,860ha

*平成30年4月現在